

# 防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察防除情報第10号

## いちご ハダニ類（育苗床）の防除対策について

現在、いちごの育苗床においてハダニ類の発生が平年より多くなっています。育苗床から本圃への持ち込みが懸念されますので、今後も発生状況に注意して防除を徹底してください。

記

### 1. 発生状況

7月後期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は19.8%（平年 5.8%）、発生圃場率は69.2%（平年 39.1%）と平年より高く（図1、2）、地域によっては多発圃場が見られた。

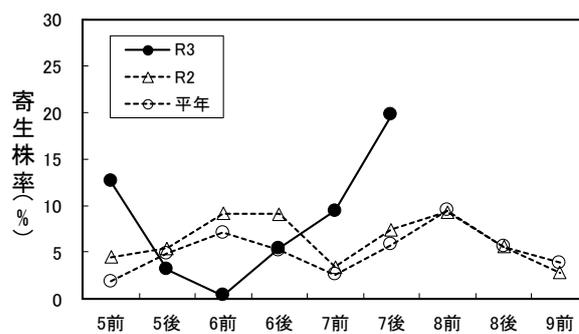


図1 ハダニ類 寄生株率の推移

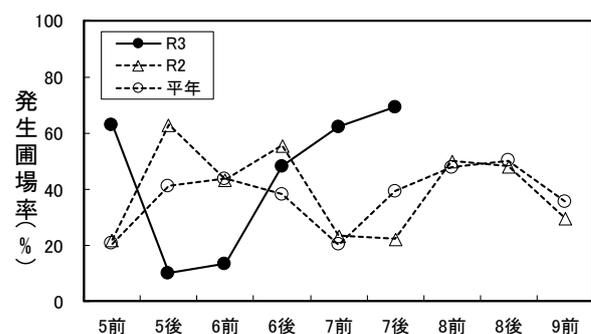


図2 ハダニ類 発生圃場率の推移

### 2. 防除対策

(1) 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないよう定植前までに防除を徹底する。株冷・夜冷処理を行う場合は、入庫前後の薬剤防除を徹底する。

【防除例】①ゆめのか（株冷・夜冷）の場合

入庫1週間前 : アバメクチン乳剤（散布）

入庫前日 : スピロテトラマト水和剤（灌注）

②ゆめのか（普通ポット）、恋みのりの場合

定植1週間 : アバメクチン乳剤（散布）

定植前日 : スピロテトラマト水和剤（灌注）

※スピロテトラマト水和剤は使用方法で効果にばらつきを生じるため注意する。薬液が株に吸収されないと効果が劣るため、処理前の灌水を控えて、ポットに薬液がしっかり入るように散布する。

(2) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

(3) 古葉を摘葉後に防除すると効果的である。摘葉した葉を圃場内に放置すると周辺株へハダニが移動するため、速やかに圃場外に持ち出し密閉処分する。

(4) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和3年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

(5) 本圃で天敵による防除を予定している場合は、天敵に長期間影響を与える薬剤があるので、剤の選択と使用時期に注意する。

---

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

